



令和6年度 施設の自己評価

【認可保育園用】

【記入方法】各項目の総合評価(A、B、C、D)の欄に○をつけてください。
A…理解して十分に取り組んでいる C…理解が不足し十分に取り組んでいない
B…概ね取り組んでいる D…取り組んでいない

項目	内容	評価				意見・改善案
		A	B	C	D	
園の基本姿勢	全体的な計画は園の理念、方針、目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえて教育、保育のねらい、内容が総合的に展開されるよう編成されている	○				リーダー会議・職員会議・ブロック会議等でヒロコメソッドの取り組みや全体的な計画、年間指導計画についての作成と話し合いをおこなっている。小学校への接続として、保育要録を作成し、継続的支援をおこなっている。
	全体的な計画をより適切なものに改めていくという姿勢を全保育者等が持っている	○				
	指導計画を作成するにあたり、一人ひとりの子どもの発達過程や状況、クラスの実態について職員の共通認識のもとに作成している。	○				
	子どもの発達状況、月や期の目標、教育、保育の実態について職員間で話し合う機会を設けている	○				
子どもの権利の尊重	就学先の小学校へ子どもの育ちを支える資料を確実に送付し、情報共有を図っている	○				人権、個人情報に関する園内研修を適宜行い、保育の振り返りをしている。
	子どもの権利について職員全体で確認し、十分配慮している	○				
	保育者は子どもに対して威圧的、命令的、否定的な言葉づかいをしていない	○				
	長期欠席の子どもの状況把握をしている	○				
教育・保育施設ならびに保育者の質の向上	子どもの様子で気になることは関係機関に報告している	○				社会情勢を理解し、教育保育の質の向上に努め、子どもたちにとっての最善の環境づくりに取り組んだ。また、各自は自己研鑽に励み、学びを保育に活かした。
	個人情報保護について職員全体で確認し、十分配慮している	○				
	園長は、地域の状況を把握し、目指す教育・保育の方針を理解し職員に伝えている	○				
	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領保育所保育指針を十分に理解し向上心を持って教育・保育に取り組んでいる	○				
	子どもと保護者のおかれた状況を受け止め、保護者とのより良い関係を築き、良好に保つための努力をしている	○				
	社会情勢や環境の変化について常に関心を持ち、時代に適した教育・保育実践のための自己研鑽に努めている	○				
	教育・保育実践を互いに見合う等、学び合いの基盤ができています	○				
保育者等の自己評価結果に基づいた施設長と職員の話し合いを実施している	○					
教育・保育計画	利用者(保護者)の意見を聞き、改善に努めている	○				全体的な計画から年間指導計画、月案、週日案への落とし込みをし、個々の発達状況に応じた配慮や促しをしている。小学校への連携として、定期的な連携会議を通して継続的な支援を行うと共に保育要録を作成し、就学前には学校教諭との面談で一人一人の情報共有をしている。
	全体的な計画(教育課程やその他の計画を含む)は、園の理念、方針、目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえて、教育・保育の「ねらい」「内容」が総合的に展開されるよう編成されている(職員の参画のもとに作成している)	○				
	全体的な計画(教育課程やその他の計画を含む)をより適切なものに改めていくという姿勢を、全ての保育者が持っている	○				
	指導計画を作成するにあたっては、一人一人の子どもの発達過程や状況、クラスの実態について、職員の共通認識のもとに作成している	○				
	一人一人の子どもの発達状況、月や期の目標、教育・保育の実態について職員間で定期的に話し合う機会を設けている	○				
就学先の小学校へ、子どもの育ちを支える資料(保育所児童保育要録)を確実に送付し、情報共有を図っている	○					

項目	内容	評価				意見・改善案
		A	B	C	D	
環境	保育者は、自身が子どもにとって重要な環境であることを十分に意識し、子どもの人権に配慮した対応をしている	○				羞恥心に配慮した環境設定をおこなっている。
環境	各保育室は整理整頓され、雑然としていない		○			子どもの口に入るような小さな玩具を置かないように徹底している。
	各保育室には、一人一人の成長発達を考慮した遊びを準備している		○			
愛着形成	子どもの成育歴や心身の発達等を考慮して、主に担当する保育者を決めている(0・1・2歳児)		○			完全に担当制ではないが、子どもとの相性なども鑑み、信頼関係を築きながら個々の援助をおこなった。
	保育者は一人一人の思いを受け止め、共感したり認めたりしながら、信頼関係を築いている		○			
	子ども同士が互いの気持ちや発言を受け入れられるように援助している(3歳児以上)		○			
健康・安全	乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるように、食事の提供を含む食育の計画を作成し、保育の計画に位置づけるとともに評価・改善に取り組んでいる		○			子どもの発達に応じた食事の形状を常に考え、提供をすると共に、そばに付き咀嚼の様子を見守ることで、安心安全な食事を心がけた。睡眠中は室内の明るさを保ち、子どもの顔色が見えるようにし、保育者が0歳児は5分おき、1・2歳児は10分おきに個々の呼吸のチェックを記録に残している。3歳児以上は15分おきにチェックをしている。
	アレルギー対応マニュアルが整備されており、マニュアルに沿って対応している		○			
	子ども一人一人の生活リズムや体調を考慮し、睡眠・食事・遊びのバランスをとっている		○			
	定期的に子どもの呼吸・体位・睡眠状態を観察し、睡眠時チェック表に記録している		○			
	子どもが睡眠している時は必ず保育者が保育室にいる		○			
	保健(衛生管理・感染症対策等)に関するマニュアルが整備されており、マニュアルに沿って対応している		○			
	家庭や地域との連携を図りながら子どもの健康増進に取り組んでいる		○			
	施設内外や園外保育先の安全点検を実施してから子どもを遊ばせている		○			
緊急時にも対応できる職員体制が整っており、役割分担が決まっている		○				
幼保小連携	子どもが危険な場所や災害時の行動の仕方が分かり、安全に配慮して行動できるよう、計画的に教育・保育を実施している		○			0・1歳児からの教育・保育の積み重ねが5歳児の姿となり、小学校就学への滑らかな移行につながることを全職員が理解している
	子どもが危険な場所や災害時の行動の仕方が分かり、安全に配慮して行動できるよう、計画的に教育・保育を実施している		○			
特別支援	記録を基に、どのような場面で子どもが困っているのかを検討し、必要に応じて専門機関(地域の保健センター、臨床心理士等)の助言を受けている		○			生活の場面でサポートが必要と思われる場合に保護者との面談を行い、相互理解を深めながら、個々の育ちを支えている。
	子どもの成長発達を保護者と共有する保育参観や個人面談等を設けて、相互理解を図っている		○			
と保護者、家庭及び地域	第三者評価、利用者アンケートに取り組み、その結果を保護者に伝え、教育・保育の改善に活かしている		○			毎年、利用者アンケートを実施し、意見や要望についてはフィードバックしている。
	地域で行われている子育て支援施策を理解し、必要とする家庭を関係機関につなげ、子育て支援事業の情報を積極的に発信している		○			